

Harris Hip Score 60 点未満の変形性股関節症に対する PSTR エクササイズ (ゆうきプログラム) の試み

H28.11.5. 第 43 回日本股関節学会 (於: 大阪)

【目的】 Harris Hip Score (HHS) 60 点未満の変形性股関節症にはエクササイズの適応はないというのが国際論文上のコンセンサスである (Bennell:JAMA 2014, White:JAMA2014, Svege:Ann Rheum Dis 2015)。我々は、手術の回避・延期を目的に PSTR(Pericapsular Soft Tissue and Realignment)エクササイズを開発した。PSTR エクササイズは、骨盤・下肢のアライメント不良 (骨盤前傾・みかけ上の脚長差など) の調整と減少した ROM を拡大させる「8 の字ゆらし」を特徴としている。我々は、第 42 回の本会で PSTR エクササイズにより NRS・ROM・開排角度・最大外転筋力が 3 ヶ月に HHS・JOA スコアが 3 ヶ月・1 年後に有意に改善されたことを報告した。今回、HHS60 点未満の症例に対する PSTR エクササイズの効果を HHS と SF-36 により検討したので報告する。

【方法】 2011 年から 2013 年までに変形性股関節症と診断され PSTR エクササイズを施行した 1077 例の外来通院患者のデータを九州臨床研究支援センターに提出し統計解析を依頼した (図 1)。285 例について HHS60 点未満群と HHS60 点以上群について解析が行われた。さらに各群を片側例群 (対側股関節の疼痛がない例) と両側例群 (対側股関節の疼痛がある例) に分け治療開始時と 3 ヶ月、1 年後の HHS と SF-36 の変化を評価した。両側例群では、疼痛の強い関節を評価した。片側例群では、154 例 (男性 21 例、女性 133 例)、平均年齢 56.4±14.2 歳であった。両側例群は、131 例 (男性 8 例、女性 123 例)、平均年齢 54.2±12.8 歳であった (表 1)。

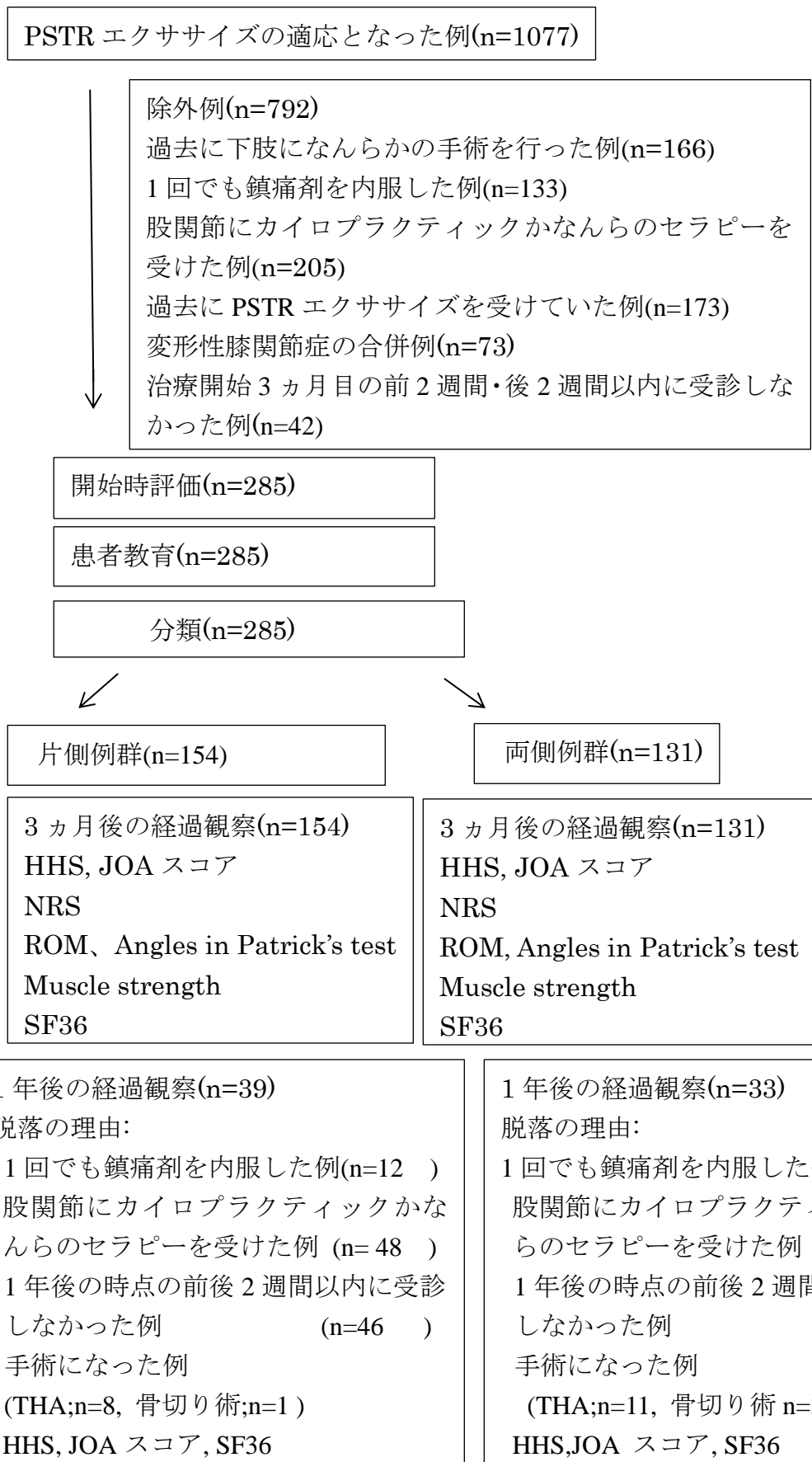


図 1 本研究に参加した患者の流れ

表 1 開始時の内容	片側例(n=154)	両側例(n=131)
平均±標準偏差		
年齢 (歳)	56.4±14.2	54.2±12.8
女性 (%)	133(86.4%)	123 (93.9%)
BMI(kg/m ²)	22.0±3.3	22.1±3.2
HHS(0-100)	74.14±17.79	65.35±17.24
59 以下	n=38 (25.0%)	n=49(37.4%)
60 以上	n=114 (75.0%)	n= 82 (62.6%)
罹病期間 (月)	30.8±50.4	55.7±98.7
X 線評価		
K/L grade		
K/L gradeI	57	51
K/L gradeII	33	29
K/L gradeIII	42	34
K/L gradeIV	22	17
最小関節裂隙 (MJS,mm)		
外側型・求心型	2.10 ±1.76 (n=127)	3.04±1.83 (n=121)
内側型	n=24	n=10
就労状態		
1: 現在就労中	n=75 (49.7%)	n=83 (48.5%)
2: 病気が理由で仕事ができない	n=2(1.3%)	n=2 (1.5%)
3: 退職(健康上の理由ではない)	n=2 (1.3%)	n=1(0.8%)
4: 仕事していない	n=22 (14.6%)	n=18(18.9%)
5: 主婦	n=50(33.1%)	n=46 (35.4%)

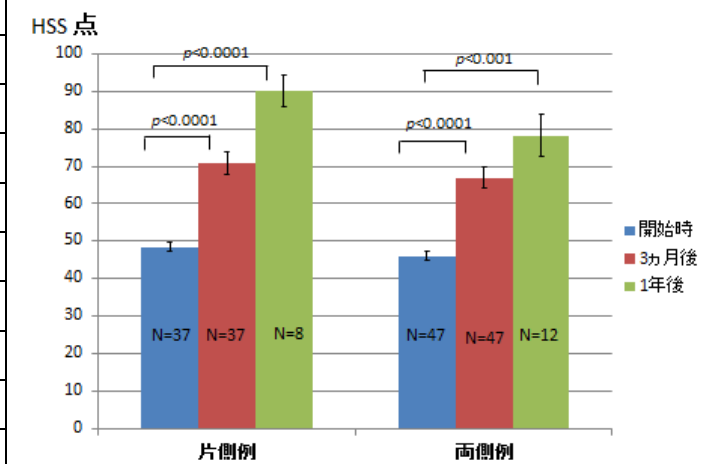


図 2A 開始時HHS<60 点のHHSの経過

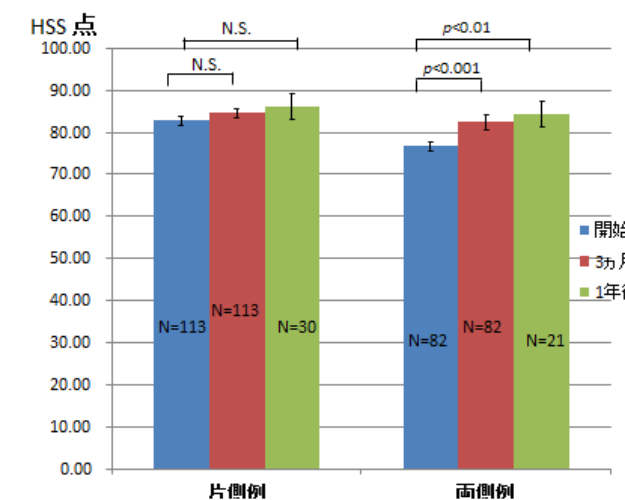


図 2B 開始時HHS60 点以上のHHSの経過

- ★対象となった全症例において鎮痛剤投与は行われなかった。
- ★全症例において治療開始時と 1 年後の K/L grade の変化は見られなかった。
- ★MJS は、内側型では関節裂隙が不明瞭な例が多かったので測定の対象にしなかった。

【結果】 1: HHS:< 60 点未満群>片側例群・両側例群共 3 ヶ月後・1 年後で有意な改善が認められた。< 60 点以上群>片側例群では有意な改善は認められず、両側例群では 3 ヶ月後・1 年後で有意な改善が認められた (図 2A・B)。2: SF-36: < 60 点未満群>片側例群では精神的 QOL サマリースコアにおいて有意な改善が見られ両側例群では精神的 QOL、役割/社会的 QOL サマリースコアにおいて有意な改善が見られた (図 3A・B)。< 60 点以上群>片側例群で精神的 QOL サマリースコアにおいて有意な改善が見られ両側例群では身体的 QOL サマリースコアにおいて有意な改善が見られた (図 3C・D)。

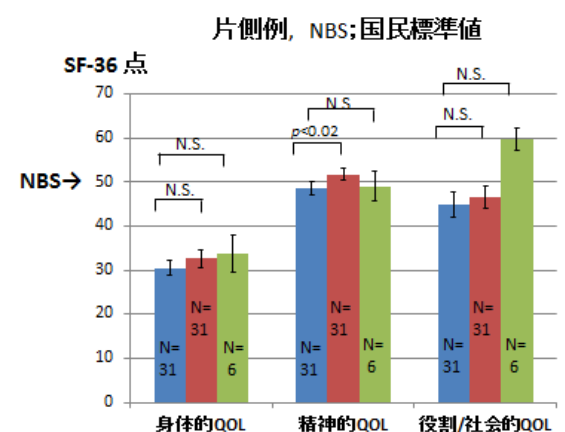


図 3A 開始時HHS<60 点のSF-36の経過 (片側例)

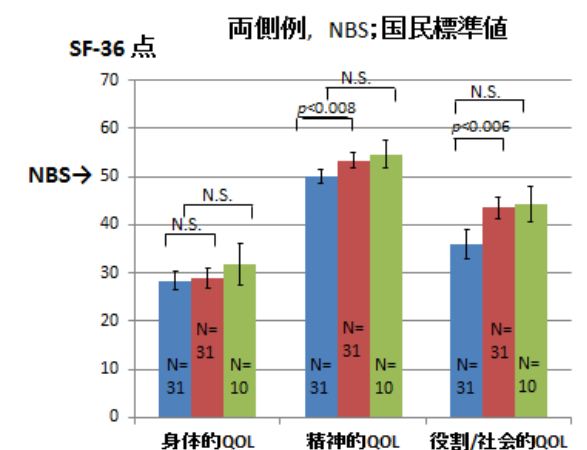


図 3B 開始時HHS <60 点のSF-36の経過 (両側例)

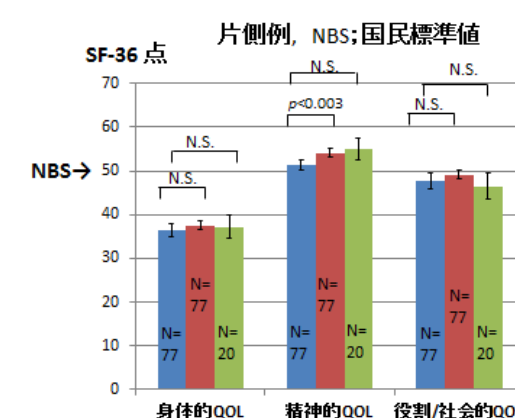


図 3C 開始時HHS ≥ 60 点のSF-36の経過 (片側例)

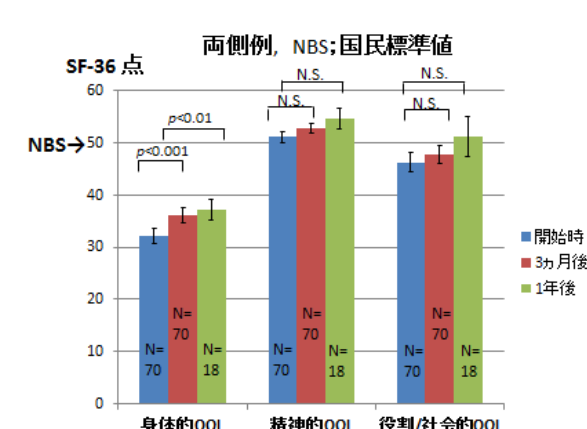


図 3D 開始時HHS ≥ 60 点のSF-36の経過 (両側例)

【結論】 手術の回避・延期につながる PSTR エクササイズの効果の可能性が示唆された。

演題発表に関連し開示すべき COI 関係にある企業等はありません。